

共に創り、生きる未来へ。

赤十字しずおか

RED CROSS SHIZUOKA

新年あけましておめでとうございます。

国内向け緊急対応ユニット配備！
引佐赤十字病院にて展開訓練を実施します。

dERUを整備します。



▲dERU全体



▲dERU内部の様子

大規模災害時における日本赤十字社の医療救護活動は、救護班と医療セットによつてきましたが、国際救援活動では、緊急対応ユニット(Emergency Response Unit)が導入され、高い評価を得ていることから、国内向けの緊急対応ユニット(domestic Emergency Response Unit)略してdERUが開発されました。

平成16年10月に発生した新潟県中越地震においても、dERUを展開し、被災地での救護所や巡回診療の活動拠点として、活躍しました。

dERUが有効に機能するよう、今後とも訓練を重ね医療救護活動のレベルアップを図っていきます。

dERUには、これまで日本赤十字社が培ってきた医療救護活動のノウハウが盛り込まれ、通信機や浄水器及び発電機も備えた自己完結的な診療所の機能をもち、山間部や僻地でも活動できるように、資機材を普通トラックで運搬できるサイズとなつています。

dERUの構成内容

- 自動昇降式コンテナ(資機材収納コンテナ)
- コンテナ運搬用車両(積載量3.5トンの4駆トラック)
- エア Tent(9×9×4m)
- 医療資機材(医療セット10ケース・医薬品2ケース・AED・冷蔵庫・折畳式寝台)
- 通信機器・事務用品(150MHz・400MHz帯無線機・衛星携帯電話・デジタルカメラ)
- その他資機材(診察台・簡易ベット・担架・浄水器・野外灯等・発電機・トイレ等)



災害医療救護訓練を実施しました。

浜松赤十字病院



冬季は風邪やインフルエンザなど体調を崩す方が多く、全国的に献血者が減少しがちになります。「はたちの献血」キャンペーンは、すべての血液製剤を国民の献血により確保する体制の確立を目指し、新たな成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層の間に献血に関する理解と協力を求めるものです。

キャンペーン期間中、献血にご協力いただいた方には「つなごうリング」をプレゼント、また1月7日(土)、8日(日)、9日(月)には県内3か所でオープニングイベントを開催しました。みなさんの温かいご協力をお待ちしています。

11月16日(水)午後、院内ならびに駐車場において、地震災害の発生を想定した医療救護訓練を実施しました。

患者の受け入れには、トリアージ(多数の患者の円滑な治療や搬送のため、重症度、緊急性を判定し、治療、搬送の優先順位を決めること)が重要であり、この訓練でも、模擬患者に対するトリアージを実施しました。また、模擬患者の想定は傷病

の部位、重症度だけでなく、1人1人に血液検査・レントゲン写真のデータまで設定しておき、実際の治療に重点を置いた訓練を行いました。訓練後は、患者ごとの設定に即した治療ができていたか、実際に災害が発生したときに問題はないかなどについて、活発な討議体制を整えています。



▲トリアージをする救護スタッフ



『赤十字奉仕団活動発表の集い』開催

11月23日(水)、静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアで「赤十字奉仕団活動発表の集い」を開催しました。

この集いは、赤十字奉仕団静岡県支部委員会の呼びかけによって、「人道・博愛」の精神のもと、自らすすんで行動する県下の赤十字奉仕団が一同に集まり、日ごろ取り組んでいるボランティア活動を発表することで県下に情報を発信し、これからの奉仕団活動の活性化と、地域の信頼や社会の要請に応じて、各々の活動の発展を図る目的で、今回初めて開催したものです。

当日は天候にも恵まれ、招待者・出席者・スタッフ合計425人が参加しました。第1部では、地域赤十字奉仕団3団、特殊赤十字奉仕団2団の活動が発表されました。また、第2部では、浜松赤十字病院坂井典子看護師長が、新潟県中越地震での「こころのケア」活動について報告し、最後に「あこがれの赤十字」を参加者全員で斉唱して、和やかな雰囲気の中で終了しました。

実行委員会の高橋委員長と発表した5奉仕団からの感想です。

活動を評価され2つの賞を受賞！ 静岡県点訳赤十字奉仕団



静岡県点訳赤十字奉仕団が、中日新聞社「中日ボランティア賞」、静岡新聞社・静岡放送「善行賞」の2つの賞を受賞しました。



▲2つの賞状と楯を持って

点訳奉仕団は、平成6年に結成されて以来、赤十字の「人道」の精神にもとづき、視覚障害者の日常に役立つ様々な点訳活動を行ってきており、その活動が評価され、今回の受賞となりました。

この受賞に、廣瀬壽一委員長は「長年地道に点訳活動に携わって来た約40名の団員の努力が認められ、受賞できたことを大変うれしく思います。また、活動を支えてくださった日赤静岡県支部に感謝いたします。11年前に点訳赤十字奉仕団が発足して以来、目の不自由な人たちの役に立ちたいと、点字図書作成、電気・電子製品のマニュアル、料理レシピ、カレンダー、カラオケ歌詞などの点訳をし、また券売機・自販機の点字ラベル作成、あるいはガイドボランティア、地域の小中高生への点字講習会を行ってきました。この受賞を励みにして、これからも頼りにされるボランティアとして活動を続けま



▲2月の定例活動日には、多くの団員が集まり、作業を行います

す。」と話してくれました。今回の受賞は、点訳奉仕団のみならず、県下の奉仕団にとっても励みになることだと思います。赤十字奉仕団の今後の活躍に期待してください!

今年も大道芸ワールドカップで活躍!

- 静岡県赤十字看護奉仕団
- 静岡県赤十字安全奉仕団



11月3日(木)～6日(日)に、秋の一大イベント「大道芸ワールドカップin静岡」が駿府公園、青葉シンボルロードを中心に開催されました。赤十字看護奉仕団と安全奉仕団はファーストエイドネットの人達とともに、救護ボランティアとして参加しました。今年は4日間で198万人の人出となり、救護所にも様々な人が訪れました。平成10年から参加している赤十字看護奉仕団 牧田歌子委員長の感想です。

「私たち看護奉仕団は、平成10年から大道芸の救護をはじめました。当時、開催日数は3日間、ブースは2か所、救護員は私達奉仕団2人ずつと市の看護学生数人で、午前10時から午後5時まで救護にあたりました。平成14年から、赤十字救急奉仕団(現安全奉仕団)の方たちも加わり、夜の9時まで詰める様になりました。また年々増加する観客数に伴い、近年はブースを3か所と増やし、安全奉仕団、ファーストエイドネットの人達と協力し合っ、市内ステージを分担してまわるなど、迅速に対応できるよう工夫してきました。今年は1日60～80万人の人出があり、来年も多くの人手が見込まれると思うので、私たちの活動が少しでも役立つよう元気に参加していきたいです。」



▲駿府公園内の救護所



▲司会の大塚沼津市赤十字奉仕団委員長と稲葉静岡市青年赤十字奉仕団委員長

▲浜松赤十字病院坂井院長の報告

▲いっぱいになった会場

藤枝市赤十字奉仕団 門長ひさ江委員長

赤十字奉仕団活動発表の集い、において、藤枝市赤十字奉仕団が中部地区代表として参加してほしいとの依頼をいただきました。様々な活動の中で、何を発表しようか大変迷いましたが、日ごろ行っている救急法を盛り込んだ寸劇をすることに決めました。シナリオ作りから始まり、配役決め、衣装決め、慣れない事はばかりで、とまどう事が多かったのですが、団員それぞれが工夫してアイデアを出し合い、少しずつ形になっていきました。ふれあいサロンの場で発表をしたり、何度も練習を重ね、いよいよ発表当日の朝を迎えました。リハーサル中、大きなステージに

全員カチカチに緊張していましたので、「今までどおり、練習のとおりにやりましょう」とお互いに声をかけあつて団員一丸となって本番に挑みました。発表終了後、1つの事をみんなですべてやり遂げた満足感と達成感で、さらに団員の結束を深めることができました。

「またやりたいね」という声も多々あがり、大変嬉しく思います。このような機会を与えてくださった皆様、関係者の方々、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



伊豆市赤十字奉仕団 三須照枝委員長

平成16年4月より、月2回の練習をしています。イギリスの教会のベルから生まれたというハンドベルの澄んだ清らかな音色で、高齢者の方々の心が癒されればと練習を始めました。伊豆赤十字病院、伊豆赤十字病院の老健施設グリーンズ修善寺、特別養護老人ホーム、と家庭を離れて生活している方そして地域サロン、人暮らしの老

人クリスマス会にと在宅老人の方にも昨年訪問演奏をして喜んでもらえ、今年も待つていくれるとのことでしたので、団員も張り切って練習に励んでおります。ハンドベルは他楽器と違い、1人での演奏は困難です。十数人で力を合わせて曲が成り立ちますので、自分の受け持つ音符は責任を持たなければ皆に迷惑をかけることになります。集中力が必要のため、ボケ防止のためにも最速と楽しく練習しています。



静岡県芸能赤十字奉仕団 藤田秋夫委員長

今年2月に発足したばかりで、赤十字奉仕団としての活動が軌道に乗りにきていませんが、今回、活動発表の時間をいただきありがとうございます。私たちの奉仕団は地域奉仕団や他の特殊奉仕団のように体を使う奉仕団ではありませんが、恵まれた経済、社会環境の中でもすれば忘れられがちな夢と笑いの伝達者として他の奉仕団と連携して活動していきたいと思っております。

今回の集いは静岡県支部として初めての試みであるとお聞きしましたが、奉仕団の皆様が一同に会して1つのイベントを成し遂げることは、各奉仕団の活動以上に力が必要であると思っております。それぞれの団の特技を生かして相互に連携しあい、災害から人を守り、地域の福祉に奉仕する日赤奉仕団の総合力を高めるためにこのような集いは大変意義あるものだと思います。

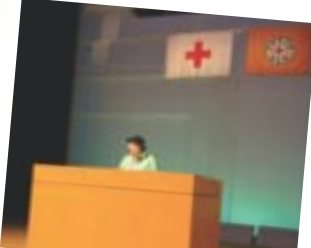


赤十字奉仕団活動発表の集い実行委員会 (赤十字奉仕団静岡県支部委員会) 高橋とみ委員長

このたび、長年の念願が叶い、赤十字奉仕団が一同に会し、赤十字の理念のもとに、取り組む活動のあり方を確認し、「ともに生きる社会」の実現に向けて、柔軟に幅広く対応する組織体制の大切さを学ぶことができました。

各々の地域にあつて、赤十字活動の担い手として創意工夫のもとに①少子高齢化社会に対応して地域の高齢者のニーズに合わせた活動②非常災害に備えての心構え、救急法の普及とともに、各奉仕団のネットワークによる確実な連絡体制③赤十字思想の普及、ならびに社会の増強などに対する支援活動

などの赤十字奉仕団としての使命感を確かめ合うとともに、今後の奉仕団活動が各々の地域社会の信頼と要請にお応えすることができるよう努力してまいります。特に、静岡県は「大規模地震対策特別措置法」により、県下全域が地震対策強化地域に指定されており、家庭機能の希薄化と高齢者家庭の現状等を考慮して、非常事態の発生に対応して活動することのできる体制の確立に努めてまいります。



▲2月の定例活動日には、多くの団員が集まり、作業を行います

静岡県無線赤十字奉仕団 中西嘉文副委員長

無線赤十字奉仕団の活動は、県や市町村で行われている非常災害対策訓練への参加が一般的ですが、訓練内容を今回の集いで発表するのは適当ではないと思ひ、「実際に災害が発生した時にいかに奉仕団が機能できるか」を皆さんに理解していただくことに重点を置き発表することにしました。しかし、その前にアマチュア無線そのものを理解してもらわなければキチとした理解はされないだろうと思ひ、「アマチュア無線とは」をまず最初に説明することにしました。皆さんに理解していただくこととなるべく簡単な言葉を使うように気をつけて今回の原稿を作り上げましたが、果たして理解していただけたのだろうかとお心配です。それにしても普段無線を楽しんでいる人達だけあつて大勢の前の発信実演は聴衆の数に圧倒されることなく堂々と話していたことはさすがといわざるを得ないと思ひました。パワーポイントを利用して発表しただけで終わることを祈ります。



浜松市浜北赤十字奉仕団 鈴木秀子委員長

私たち浜松市浜北赤十字奉仕団は平成15年度、16年度と地域高齢者生活支援活動モデル奉仕団として指定を受けました。この事業を立ち上げるための取り組みとして、まず、どんな活動をするのか、どんな方法で取り組もうかと何回も役員会を開き、検討し、話し合いを持ちました。その結果、高齢者の方々も青空のもとでスポーツに親しみ、より健康でより生きがいのある人生を送っていただけのように、私たちが少しでもそのお手伝いができればと思ひ「げんきをたたえる」活動として「げんき讃のつどい」を立ち上げました。事業を終えてから、あちこちの方から感想文が寄せられました。

そして「赤十字奉仕団活動発表の集い」では、実際に活動しているスライド写真のほか、役員によるグランドゴルフの寸劇を取り入れ、ユーモアを交えたわかりやすい発表ができました。





健康福祉まつりに参加しました

伊豆赤十字病院

12月4日(日)に開催された「平成17年度伊豆市健康福祉まつり」で看護師と臨床検査技師による健康チェックおよび健康相談を行いました。

まず、看護師により血圧・体脂肪測定を行い、次に臨床検査技師が血圧脈波検査装置で動脈硬化度を測定します。この検査では、両手・両足首の4箇所の血圧を測定し、前腕と足首の血圧比から血管の詰まり具合が、そして脈拍の伝わる速度から血管の硬さがわかるだけでなく、得られた波形などの情報から動脈硬化度



▲血圧脈派検査装置測定の様子

を総合的に診断します。その結果に応じて日常生活上の注意点を説明しました。

伊豆市健康福祉まつりは、地域の方々に健康(医療)や福祉に興味・関心を持っていただくイベントであり、住民

の健康に対する意識向上に貢献できるよう、当院もその一端を担えればと考えています。

また、老人保健施設「グリーンズ修善寺」では、入所・通所者の作品を展示し、介護相談に応じました。

今年、伊豆市赤十字奉仕団に加えて、静岡県芸術赤十字奉仕団も市の要請により、ピエロマジックなどの大道芸を披露し、大喝采を浴びていました。



災害救援車を配備しました

裾野赤十字病院

当院の訪問看護車が老朽化したため、新たに災害救援車が日赤静岡県支部より配備されました。これにより、災害発生時の対応がよりスムーズになると考えられます。

東海地震、相模湾沖地震等が騒がれている今、日赤の救護活動に対する期待も大きく、また負う責任も重大です。

いつ発生するかわからない地

震や災害などに迅速な対応ができるよう、常日頃から職員一人ひとりが、危機意識を持って災害訓練などに励んでいます。



▲配備された災害救援車



「気づき・考え・実行する」を実践しています!

青少年赤十字高等学校協議会

青少年赤十字高等学校協議会では、赤十字精神に基づき、各校相互の親睦及び連絡を強化し、青少年赤十字活動のさらなる充実、発展と普及を図るために、定例会を実施しています。この定例会は年8回行われ、会の企画や運営を協議会役員が行うところに大きな特徴があります。

青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理

解・親善」に沿って、応急手当や点字講習会、視覚障害者の誘導体験や静岡在住の留学生を招いての国際交流会や手話講習会を行っています。



▲視覚障害者の誘導体験



“肺ドック”始めました

静岡赤十字病院

平成17年12月から、「肺ドック」を始めました。

日本人の癌死亡のトップは、厚生労働白書によると、1998年からは胃がんを抜いて肺がんが男女ともに第1位となっています。肺がんによる死亡者は毎年5万人を超え、年々増加傾向にあります。

肺ドックの目的は、肺がんをはじめとする胸部疾患の早期発見です。ドックで用いるヘリカルCTは、エックス線ビームをらせん状に動かし、高性能な検査を短時間で行うことができるうえ、小さな

早期治療であるといえます。見つかるのは肺がんばかりではありません。喫煙が主な原因である慢性肺気腫などの疾患も早期に診断可能です。肺気腫には有効な治療法はなく、早期に発見

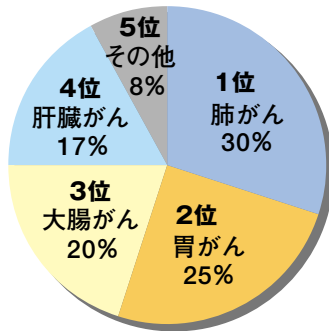


図1：日本人の死亡原因の第1位は肺がん

し、早期に禁煙する以外に進行を止める方法はありませんので次の項目に該当される方は、ぜひ一度肺ドックを受診されるようお勧めします。

- ① 40歳以上で喫煙歴20年以上
- ② 1日の喫煙本数×喫煙年数が600以上
- ③ 同居者にヘビースモーカーがいる
- ④ から咳や痰が続く
- ⑤ 坂道や階段での息切れがひどくなった、など。

当院の肺ドック検査項目

- ① 医師による診察
- ② 胸部単純レントゲン写真
- ③ ヘリカルCT
- ④ 喀痰細胞診
- ⑤ 腫瘍マーカー
- ⑥ 肺機能検査



写真1：心臓の陰にできた肺がん

お問い合わせ・申込は
静岡赤十字病院健診センター (☎054-253-8732) へ

静岡赤十字病院の肺ドックは、診断から治療まで、トータルにサポートします。

コラムで自己診断

インフルエンザと薬

引佐赤十字病院 薬剤部 山田喜広

今年もインフルエンザの季節がやってきました。予防のため毎年ワクチンを接種し、外出する時には人混みを避け、マスクを着用し、外出後はこまめに手洗い・うがいをするなど、あらゆる注意をしてもインフルエンザにかかる場合があります。



以前は、有効な治療薬がありませんでしたが、数年前から有効な薬が認可されてきました。その中でも平成13年に認可され、現在、最も広く使用されているオセルタミビル(タミフル)はA型、B型いずれのインフルエンザにも有効で、なおかつ副作用が少なくインフルエンザの症状を軽減し、回復が早くなります。ただし、この薬は発症してから48時間以内に使用を開始しないと十分な効果が望めませんので、「インフルエンザかな?」と思ったら迷わず医療機関に受診しましょう。

「赤十字しずおか」に対するご意見・ご感想をお寄せください。

感想をお寄せいただいた方の中から抽選で10名様に粗品を差し上げます。締め切りは2月14日(火)です。

あて先・・・〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17 日本赤十字社静岡県支部
または、shibu@shizuoka.jrc.or.jp まで

